



図 2.1.6 学校、病院等の施設の位置

2.2 生活環境の概要

2.2.1 大気質

大阪市所管の大気汚染常時監視測定局¹⁾の配置図を図 2.2.1 に示す。市内には、一般環境大気測定局（以下、「一般局」という。）が 15 局、自動車排出ガス測定局（以下、「自排局」という。）が 11 局、タワー測定局が 1 局設置されている。また、測定結果の概要は表 2.2.1(1) 及び(2)にそれぞれ示すとおりである。

大阪市環境局ホームページ ([http://www.city.osaka.jp/kankyo/jigyo/pdf/080606_\(01~03\).pdf](http://www.city.osaka.jp/kankyo/jigyo/pdf/080606_(01~03).pdf))（以下、「平成 19 年度常時監視測定結果」（大阪市、平成 20 年）という。）によると、大阪市内における大気質の現状は以下のとおりである。

(1) 二酸化窒素

「平成 19 年度常時監視測定結果」（大阪市、平成 20 年）によると、平成 19 年度の大阪市内における二酸化窒素濃度の年平均値は、一般局で 0.024ppm、自排局で 0.032ppm であり、前年に比べ一般局で 0.003ppm、自排局で 0.002ppm 減少した。なお、事業計画地の位置する阿倍野区では二酸化窒素の測定は実施されておらず、最寄りの一般局である西成区今宮中学校の年平均値は 0.027ppm、最寄りの自排局である東住吉区杭全町交差点の年平均値は 0.034ppm であった。

平成 19 年度の大阪市内における環境基準達成状況は、一般局は 13 局全て、自排局は 11 局中 9 局が環境基準を達成しており、前年度と比べ自排局で達成局数が増加していた。

(2) 浮遊粒子状物質

「平成 19 年度常時監視測定結果」（大阪市、平成 20 年）によると、平成 19 年度の大阪市内における浮遊粒子状物質濃度の年平均値は、一般局で 0.033mg/m³、自排局で 0.032 mg/m³ であり、前年度と比較すると一般局で 0.001 mg/m³ 増加、自排局で 0.003mg/m³ 減少した。なお、事業計画地の位置する阿倍野区では浮遊粒子状物質の測定は実施されておらず、最寄りの一般局である西成区今宮中学校の年平均値は 0.031 mg/m³、最寄りの自排局である東住吉区杭全町交差点の年平均値は 0.027 mg/m³ であった。

平成 19 年度の市内における環境基準達成状況は、長期的評価では、一般局は 14 局中 13 局で、自排局は 9 局中 8 局で環境基準を達成しており、前年度と比べ一般局で達成局数が減少していた。また、短期的評価では、一般局、自排局全局で未達成であった。

(3) 二酸化硫黄

「平成 19 年度常時監視測定結果」（大阪市、平成 20 年）によると、平成 19 年度の大阪市内における二酸化硫黄の平均値は、一般局（14 局）で 0.005ppm、自排局（2 局）で 0.004ppm であり、すべての測定局で環境基準を達成していた。

¹⁾ 大気汚染の状況を 24 時間体制で把握するための施設で、一般環境大気測定局と自動車排出ガス測定局がある。

- 一般環境大気測定局 (15)
 - 自動車排出ガス測定局 (11)
 - ▲ タワー測定局 (1)
 - ◎ 環境情報システム室
(WTCビル36階)



資料：大阪市環境白書 平成19年版（大阪市、平成20年）

図 2.2.1 大気汚染監視測定期局配置図